

小学生からの都道府県おでかけ図鑑 用語解説

用語	読み方	解説	初出ページ	コーナー、都道府県
温泉地	おんせんち	数多くの温泉が集まっている地いきのこと。かん光や体の悪い所をなおす目てきで多くの人がおとずれる。	10	日本のまちいろいろ
里地里山	さとちさとやま	山林や集落、田畑やため池などからなる地いき。自ぜんのめぐみを用した生活がいとなまれてきた。	10	日本のまちいろいろ
宿場町	しゅくばまち	街道(かいどう)とよばれる大きな道ぞいにできた町。宿や商店、荷物を運ぶためのしせつがあった。	10	日本のまちいろいろ
城下町	じょうかまち	地いきをおさめる人が住む城(しろ)を中心に発たつた町。身分や仕事などによって住む所が分かれていた。	10	日本のまちいろいろ
ベッドタウン	べっどたうん	大都市ではたらく人たちの住たく地を中心に発たつた町。大都市のまわりにあり、鉄道でむすばれている。	10	日本のまちいろいろ
港町	みなとまち	ぎよ業や、船で荷物を運ぶのにべんりな港や川岸にできた町。荷物をほかんするそう庫や蔵(くら)があった。	10	日本のまちいろいろ
都	みやこ	天皇(てんのう)の住まいがある土地や、国をおさめる人たちがはたらく場所がある所を指す。	10	日本のまちいろいろ
門前町	もんぜんまち	有名な神社や寺を中心に発たつた町。おまいりする人が多くおとずれるため、宿や商店が集まりにぎわった。	10	日本のまちいろいろ
商業	しょうぎょう	物を売り買してもうけを出す仕事。商業が活発になると人や物、お金が集まるため、国の力が上がる。	12	城下町
制札	せいさつ	やってはいけない事や決まり事を板に書いて立てたもの。人々に広く知らせるため、道ばたなどに立てられた。	12	城下町
中世	ちゅうせい	れきしの流れをいくつかに分けたいちの一つ。日本では鎌倉(かまくら)～室町(むろまち)時代ごろ。	12	城下町
庭園	ていえん	城(しろ)に住む人が、力があることをしめすために作った庭。木や池、石などがおかれ美しく整えられた。	12	城下町
武家地	ぶけち	武士(ぶし)が住んでいた所。城(しろ)に近い場所にあった。	12	城下町
町奉行所	まちぶぎょうしょ	決まりにしたがって町をおさめ、あらしい事のかい決や、けいさつなどの仕事をしていた場所。	12	城下町
楽市・楽座	らくいち・らくざ	大名(だいみょう)が、町をはんえいさせるために行ったせいさく。商人が自由に商売できるようにした。	12	城下町
行政	ぎょうせい	町に住む人々が安心して生活できるよう、役人がくらしにかかわる様々な仕事を取り仕切ること。	13	城下町
寺社地	じしゃち	神社や寺が集まっている所。てきのこうげきから町を守るため、町が一番外がわにおかれることが多かった。	13	城下町
司法	しほう	決まりにしたがって、あらしい事をかい決したり、悪い事をした人をさばいたりすること。	13	城下町
天守閣	てんしゅかく	城(しろ)の中心にある一番高い部分。まわりがよく見えるため、てきの様子をさぐるためなどに使われた。	13	城下町
防衛	ぼうえい	てきのこうげきをふせぎ、守ること。	13	城下町
本丸	ほんまる	城(しろ)の中心で、一番大事な部分。上に天守閣(てんしゅかく)がある。	13	城下町
町奉行	まちぶぎょう	江戸(えど)時代の役しよくの一つ。町をおさめ、あらしい事のかい決や、けいさつなどの仕事を行った。	13	城下町
町役人	まちやくにん	町人(ちょうにん)の代表。町奉行(まちぶぎょう)の下で人々のくらしにかかわる仕事をしていた。	13	城下町
与力	よりき	武士(ぶし)の役人で、町奉行(まちぶぎょう)の仕事を手助けていた。	13	城下町
街道	かいどう	都市と都市をむすぶ大きな道。旅をする人や荷物を運ぶ人などが行き来した。	14	門前町

参詣客	さんけいきゃく	神社や寺におまいりするためにおとずれた人のこと。	14	門前町
参道	さんどう	神社や寺におまいりするための道。多くの人 が通るメインの道を表参道(おもてさんどう) という。	14	門前町
宿坊	しゆくぼう	神社や寺におまいりする人のための宿。	14	門前町
神官	しんかん	神社で神をまつる行事をとり行う人のこと。	14	門前町
神社仏閣	じんじゃぶつかく	神社と寺のこと。	14	門前町
自治集落	じちしゅうらく	地いきで大きな力を持つ人のさしずでな く、くらしにかかわる事を自分たちで決めて いた集落のこと。	15	門前町
寺内町	じないまち	寺を中心にできた町。町のことを自分たち で決めて運えいしていた。町を守るため、ほり や土のていぼうでまわりをかこんでいた。	15	門前町
巡礼	じゅんれい	いろいろな土地にある神社や寺をまわっ ておまいりすること。	15	門前町
浄土真宗	じょうどしんしゅう	仏教(ぶっきょう)の一つで、鎌倉(かまくら) 時代に親鸞(しんらん)というおぼうさんが 始めた。	15	門前町
商人	しょうにん	物を売り買ひしてもうけを出す仕事をする人。	15	門前町
職人	しよくにん	物を作る仕事をする人。	15	門前町
庶民	しょみん	とくべつな身分ではなく、ふつうにくら している人々のこと。	15	門前町
神職	しんしよく	神社で神をまつる行事をとり行う人のこと。	15	門前町
信徒	しんと	決まったしゅう教をしんじている人のこと。	15	門前町
僧侶	そうりょ	おぼうさんのこと。寺で仏教(ぶっきょう)の 教えを守った生活をし、仏教について学 んでいる。	15	門前町
鳥居前町	とりいまえまち	神社の鳥居(とりい)の前にあり、神社を 中心として発つた町のこと。	15	門前町
布教活動	ふきょうかつどう	しんじているしゅう教を、たくさんの人 に広めるための活動のこと。	15	門前町
平安時代	へいあんじだい	今の京都市に平安京(へいあんきょう)とよ ばれる都がおかれていた時代のこと。794 ～1185年のやく400年間。	15	門前町
町屋	まちや	店と住まいをかねた家。人通りの多い 道ぞいにたてられることが多かった。	15	門前町
物見遊山	ものみゆさん	いろいろな場所を見物したり遊びに行 ったりすること。	15	門前町
近世	きんせい	れきしの流れをいくつかに分けたうち の一つ。日本では安土桃山(あづちももや ま)～江戸(えど)時代ごろ。	16	宿場町
五街道	ごかいどう	江戸(えど)の日本橋から、かく地に向 かう5つの大きな道のこと。	16	宿場町
参勤交代	さんきんこうたい	江戸(えど)時代の決まり。大名(だ いみょう)は1年おきに江戸と自分の国 を行き来しなければならなかった。	16	宿場町
宿駅伝馬制度	しゆくえきてんませいど	手紙や荷物を運ぶためのしくみ。宿場 (しゆくば)ごとに人と馬を交たいさ せてリレーのように運んでいた。	16	宿場町
大名	だいみょう	江戸(えど)時代、将軍(しょうぐん)に つかえて、それぞれの土地をおさめて いた人。	16	宿場町
継ぎ送り	つぎおくり	かく地におかれた宿場(しゆくば)ご とに人と馬を交たいさせて、リレーの ように荷物を運ぶこと。	16	宿場町
幕府	ばくふ	将軍(しょうぐん)を中心とした、武 士(ぶし)のそしき。国の大事なことが 、ここで決められていた。	16	宿場町
藩	はん	大名(だいみょう)がおさめていた りょう地のこと。	16	宿場町
公家	くげ	朝廷(ちやうてい)とよばれる、天 皇(てんのう)を中心にせいじを行って いた所ではたっていた役人。	17	宿場町
宿場	しゆくば	旅人のための宿や茶屋、手紙や荷物を 運ぶためのしせつがあった所。大きな 道ぞいの大事な場所にあった。	17	宿場町
問屋	とんや	人や馬を用意し、手紙や荷物を運ぶ 仕事をしてた所。	17	宿場町
本陣	ほんじん	天皇(てんのう)の使いや大名(だ いみょう)、公家(くげ)などがと まった宿。	17	宿場町

脇本陣	わきほんじん	宿はくする人が多く、本陣(ほんじん)だけでは足りない場合に使われたよびの宿。	17	宿場町
河岸	かし	川の岸に船をつけて、荷物をつんだり下ろしたりした所。	18	港町
拠点集落	きよてんしゅうらく	じゅうような場所にあった集落のこと。	18	港町
古代	こだい	れきしの流れをいくつかに分けたうちの一つ。日本では奈良(なら)~平安(へいあん)時代ごろ。	18	港町
店舗	てんば	商品を売る店のこと。	18	港町
問丸	といまる	港の近くに住み、船で荷物を運んだり、そう庫に荷物をほかんしたりする仕事をしていた人。	18	港町
納屋衆	なやしゅう	海岸にそう庫を持っていた商人。荷物をほかんしたい人にかけて、もうけを出していた。	18	港町
荷揚場	にあげば	船で運んできた荷物を、りくにあげるための場所。	18	港町
荷置場	におきば	荷物をおいておくための場所。	18	港町
年貢物	ねんぐもの	地いきをおさめる人が、人々から取り立てていたもの。主に米がおさめられていた。	18	港町
寄港地	きこうち	目でき地に行くところとちゅうでおとずれる港のこと。	19	港町
舟運	しゅううん	舟を使って荷物を運ぶこと。	19	港町
内外交易	ないがいこうえき	品物と品物を交かんして取り引きすること。国内だけではなく、中国など他の国との取り引きも行われていた。	19	港町
日米修好通商条約	にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく	1858年にむすばれた日本とアメリカの間の取り決め。日本は5つの港を開いてぼうえきをすることになった。	19	港町
物資輸送	ぶっしゆそう	品物や物を作るためのざいりょうを、ひつような場所へ運ぶこと。	19	港町
室町時代	むろまちじだい	室町幕府(むろまちばくふ)が開かれてからほろぶまでの時代のこと。1336~1573年のやく240年間。	19	港町
弥生時代	やよいじだい	今から2300~1700年前くらいの時代のこと。米づくりが始まった。	19	港町
首都	しゅと	天皇(てんのう)が住んでいたり、せいじが行われたりするなど、国の中心となる都市のこと。	20	都
遷都	せんと	都を他の場所へうつすこと。日本では天皇(てんのう)が住む場所をうつす時に使われた。	20	都
観光	かんこう	かく地をおとずれて、しぜんや文化などを見たり休けんしたりして楽しむこと。	21	温泉地
湯治	とうじ	温せん地にしばらくとどまり、温せんに入って病気をなおしたり、体の調子を整えたりすること。	21	温泉地
ため池	ためいけ	雨が少ない地いきで、農業用の水をためておくために作られた池。	22	里地里山
二次林	にじりん	たくさん木を切り出すなど、人によってうしなわれた林が、自ぜんにさい生したるもの。	22	里地里山
農地	のうち	田や畑など、農作物を育てるための土地のこと。	22	里地里山
萌芽更新	ほうがこうしん	木を切って、切りかぶからわかくきや葉をたくさん出させることによって、林をわか返らせること。	22	里地里山
郊外	こうがい	都市ととなり合った地いきのこと。	23	ベッドタウン
ドーナツ化現象	ドーナツかげんしょう	都市に住む人がへり、しゅうへん地いきに住む人がふえる様子を表した言葉。	23	ベッドタウン
SDGs	エスディージーズ	世界中の人々がこれからも安心してくらしをいけるよう立てられた17の目ひょう。	24	未来都市
仮想空間	かそうくうかん	インターネット上に作られた場所。はなれた場所にいる人どうしが交流したり、様々な休けんができたりする。	24	未来都市
環境保全	かんきょうほぜん	地球温だん化など、人間の活動によって地球のかんきょうが悪くなるのをふせぐための取り組みのこと。	24	未来都市
合掌造り	がっしょうづくり	つもった雪を落とすために、屋根の角度がななめに作られている家。	25	日本の世界遺産
産業革命	さんぎょうかくめい	仕事の手作業からきかいて行われるようになった。このかくめいで、鉄道やゆうびんシステムが整った。	25	日本の世界遺産

浄土	じょうど	仏(ほとけ)が住む平和な世界のこと。苦しみ が全くないとされている。	25	日本の世界遺産
信仰	しんこう	神や仏の教えをしんじて、心のささえとすること。	25	日本の世界遺産
製鋼	せいこう	鋼(はがね)をつくること。	25	日本の世界遺産
生態系	せいたいけい	生き物と、水や太陽などがかわりあって作り 上げるかんきょうのこと。	25	日本の世界遺産
製鉄	せいてつ	鉄をつくること。	25	日本の世界遺産
世界遺産	せかいいさん	世界で重ような自ぜんや場所、文化、けんせ つ物のこと。	25	日本の世界遺産
石炭産業	せきたんさんぎょう	ほった石炭を使って、ねんりょうやざいりょうに り用すること。	25	日本の世界遺産
造船	ぞうせん	船をつくること。	25	日本の世界遺産
ユネスコ	ユネスコ	193の国と地域がさんかしており、おたがいの 科学や文化を理かひするのための組しき。	25	日本の世界遺産
五感	ごかん	生き物が外から感じるもののうち、はなや目、 耳、ひふ、味から感じるもの。	26	日本の世界遺産
開拓	かいたく	山や野原を切り開き、たて物や道路をつくる こと。	30	北海道
幕末	ばくまつ	1853年から1868年の間の、え戸時代の終 わりの時期のこと。	31	北海道
国宝	こくほう	国が指定した、かちが高いとされるたて物 や、仏像(ぶつぞう)のこと。	34	岩手県
農耕馬	のうこうば	畑をたがやすための馬。荷物を運ぶための 車を引かせることもある。	34	岩手県
養しよく	ようしよく	生き物を人間の手で育てること。	34	岩手県
草木染め	くさきぞめ	植物などの天ねんのざいりょうを用いて、ぬ のをそめること。	35	岩手県
水車小屋	すいしゃごや	水車がついている小屋のこと。水車のかで、 作業を行う。	35	岩手県
親潮	おやしお	北海道の千島列島から、南に流れる海流の こと。	36	宮城県
黒潮	くろしお	東シナ海から日本列島をそように流れる海 流のこと。	36	宮城県
日本三景	にほんさんけい	日本で有名な3か所の美しい景色(けしき) のこと。松島(まつしま)、天橋立(あまのはし だて)、宮島のことを指す。	36	宮城県
かまくら	かまくら	雪で作られた家のようなもの。日本の寒い地 いきで行われるでんとうきなイベントであ る。	38	秋田県
林業	りんぎょう	木を植えて、育った後に、切って売るさん業の こと。	38	秋田県
関ヶ原の戦い	せきがはらのたたかい	石田三成(いしだみつなり)と徳川家康(とく がわいえやす)の戦争。徳川家康が勝利し た。	39	秋田県
洋風建築物	ようふうけんちくぶつ	1853年より後に建てられた、ヨーロッパの家の デザインを取り入れた建物。西洋館とも呼 ばれる。	39	秋田県
居城	きよじょう	しろに住むこと。	41	山形県
見晴台	みはらしだい	まわりの景色(けしき)を見わたすために、高 い場所に作られた台。	43	福島県
在来線	ざいらいせん	新幹線(しんかんせん)以外の鉄道のこと。	44	日本の新幹線
新幹線	しんかんせん	日本の都市の間を走る鉄道。速さがやく200 キロメートルもでる。	44	日本の新幹線
耕地面積割合	こうちめんせきわりあい	日本の全ての土地のうち、作物を育てるため の土地のわり合。	45	関東地方
日本三大名園	にほんさんだいのめいえん	茨城県(いばらきけん)、石川県、岡山県(お かやまけん)にあり、すばらしい景色(けしき) を見ることができ庭。	47	茨城県
藩校	はんこう	江戸時代に、武士(ぶし)の子どもが学んだ 学校のような場所。	47	茨城県
内陸工業団地	ないりくこうぎょうだんち	海からはなれたりく地にある工業だん地。	48	栃木県
保養地	ほようち	暑さや寒さを避けるために作られた、休けい を取るための場所。長い休みの間に人びとが 訪れる。	49	栃木県
絹織物	きぬおりもの	蚕(かいこ)が出した糸で作られた絹(きぬ) のぬの。じょうぶである。	50	群馬県
製糸場	せいしじょう	虫である蚕(かいこ)が作る覆い(おおい)か ら糸を取り出す工場のこと。群馬県(ぐんまけん) の富岡製糸場(とみおかせいしじょう)が 有名。	50	群馬県

標高	ひょうこう	東京湾(とうきょうわん)を0メートルとした所からの高さ。	50	群馬県
養蚕	ようさん	蚕(かいこ)を育てるさん業。蚕が出した糸を使って絹(きぬ)を作っていた。	50	群馬県
湯もみ	ゆもみ	あつい温せんに180センチメートルの板で湯をもむこと。もむことで、温泉のこうかをへらすことなく温度を下げるができる。	51	群馬県
あい染	あいぞめ	こい青色が出る植物を使って、ぬのをそめること。	52	埼玉県
近こう農業	きんこうのうぎょう	都市の近くで農業を行うこと。	52	埼玉県
古墳	こふん	4~7世紀(せいき)に土をもり上げて作った位(くらい)の高い人をほうむるためのはか。	52	埼玉県
新都心	しんとしん	東京都(とうきょうと)がはたしている役わりを分けるためにさいたま市に作られたエリアのこと。	52	埼玉県
山車	だし	お祭りで使われる、かざりつけられた車。神様をもてなすことが目てきてある。	52	埼玉県
和紙	わし	日本で古い時代から作られてきた紙。主に植物で作られている。	52	埼玉県
首都	しゅと	国の中心となっている場所のこと。国の大きな決め事をするための場所である。	56	東京都
世界三大都市	せかいさんだいとし	世界にえいきょう力のある都市のこと。ロンドン、ニューヨーク、東京を指す。	56	東京都
報道機関	ほうどうきかん	放送局や、新聞社など、国民にニュースをとどけるだん体のこと。	56	東京都
鎌倉幕府	かまくらばくふ	源頼朝(みなもとのよりとも)が、神奈川県(かながわけん)に開いた、せいじを行う場所のこと。	59	神奈川県
普及台数	ふきゅうだいすう	1家族が持っている車の数の平きん。	61	中部地方
日本三大峡谷	にほんさんだいきょうこく	富山県(とやまけん)、新潟県(にいがたけん)、三重県で見られる、大きな谷。	62	新潟県
産業遺産	さんぎょういさん	1880年代後半いこうに作られた、工場やきかいのこと。佐渡金山(さどきんざん)が有名。	63	新潟県
棚田	たなだ	山のしゃめんに作られた、階だんのような田んぼ。	63	新潟県
トキ	トキ	体が白く美しい鳥。ぜつめつの危険があるため、新潟県(にいがたけん)でほごされている。	63	新潟県
七輪	しちりん	炭をもやすための道具。昭和時代には、あみの上に魚を乗せて、やいて食べていた。	66	石川県
内陸	ないりく	海からはなれた、りく地のこと。	67	石川県
禅文化	ぜんぶんか	1つの神様をうやまうのではなく、自分自身をみかいて心の迷いをなくすこと。	69	福井県
リニア	リニア	速さ500キロメートルで走る、じ石の力を使って、うきながら走る車両。	70	山梨県
精密機械工業	せいみつしかいこうぎょう	カメラや時計のような高いぎじゅつをひつようとする工業。	72	長野県
中山道	なかせんどう	江戸時代に使われた主な5つの道路の1つ。東京の日本橋から京都の三条大橋(さんじょうおおはし)をむすんでいる。	75	岐阜県
法令	ほうれい	国で作られた、おきてや決まりのこと。	75	岐阜県
天然記念物	てんねんきねんぶつ	国で指定された、まもられるべき植物や動物、化石などを指す。	77	静岡県
自動車産業	じどうしゃさんぎょう	自動車を作ったり、売ったり、しゅう理したりするなど、自動車を主としたさん業。	78	愛知県
第二次世界大戦	だいにじせかいたいせん	ドイツ、イタリア、日本とアメリカ合しゅう国、ソ連(それん)、イギリスが起こした大きなせんそう。	79	愛知県
徳川家康	とくがわいえやす	江戸(えど)時代を作った武将(ぶしやう)。関ヶ原の戦い(せきがはらのたたかい)が有名である。	79	愛知県
積雪量	せきせつりょう	地面につもった雪の深さ。	81	近畿地方
石油化学コンビナート	せきゆかかがくコンビナート	石油で物を作る工場がいくつもつながってできた場所。	82	三重県
リアス海岸	りあすかいがん	のこぎりのような形をした海岸。地面が沈んだり、海面が上昇したりするなどしてできる。	82	三重県
天照大御神	あまてらすおおみかみ	日本神話に登場する神様。どんなねがいても聞いてくれるとされている。	83	三重県
人口密度	じんこうみつど	ある地いきにおいて、人がどれくらいこんでいるかを表した数値(すうち)。	88	大阪府

豊臣秀吉	とよとみひでよし	1467年から1615年までの時代に活やくした武将(ぶしょう)で、はじめて天下とうーをはたした。	88	大阪府
貿易	ぼうえき	外国と品物やサービスを買ったり売ったりすること。	91	兵庫県
果樹農業	かじゅさんぎょう	主に果物(くだもの)を育てる農業のこと。	94	和歌山県
空海	くうかい	平安時代に活やくしたおぼうさん。日本に真言宗(しんごんしゅう)を広めた。	95	和歌山県
砂丘	さきゅう	さばくにできたおかのこと。風にふかれたすなが集まってできた。	98	鳥取県
戦国時代	せんごくじだい	1467年から、1615年までの間の時代のこと。全国の武将(ぶしょう)がひんぱんにせんそうを行っていた時代。	99	鳥取県
なまこかべ	なまこかべ	家のかべに石かい、ねん土などを混ぜたものでかわらをはり、なまこのように見えることから名づけられた。	103	岡山県
虫こ窓	むしこまど	京都でよく見られるまどで、間かくが同じあなが開いており、風通しをよくしている。	103	岡山県
源平合戦	げんべいかっせん	1180年から、1185年までに起こった、源氏(げんじ)と平氏(へいし)のたたかいのこと。	106	山口県
鍾乳洞	しょうにゅうどう	石かい岩が雨でとけて内部に空間ができた地下の空間。	106	山口県
LED	エルイーディー	電気を流すと光が出るせいしつをもつ。使う電気のようが少なく、かんきょうにやさしい。	110	徳島県
潮の干満	しおのかんまん	しおが引いたりみちたりすること。	110	徳島県
安土桃山時代	あづちももやまじだい	織田信長(おだのぶなが)と豊臣秀吉(とよとみひでよし)がおさめていた時代のこと。	111	徳島県
メサ	メサ	地面の一部がけずられてきた、テーブルのような形をしている台地のこと。	113	香川県
山岳信仰	さんがくしんこう	山を神とみなし、おがんだりぎ式を行ったりすること。	114	愛媛県
しん食	しんしょく	雨や風などによって、地面がけずられること。	117	高知県
水平線	すいへいせん	海と空の境目(さかいめ)のこと。	117	高知県
石器	せっき	石でできた道具。15000年から2400年前は石をけずって、ナイフや槍(やり)を作っていた。	117	高知県
土器	どき	粘土(ねんど)を使った入れ物。縄文土器(じょうもんどき)や弥生土器(やよいどき)が有名。	117	高知県
ブローラー	ブローラー	国さんのニワトリのこと。生育期間が短い。	119	九州地方
舗装率	ほそうりつ	車が通る道が、アスファルトやコンクリートでかためられているわり合。	119	九州地方
磁器	じき	ねん土で作られた入れ物の1つで、じょう夫である。有田やきや九谷やきが有名。	122	佐賀県
陶磁器	とうじき	ねん土で作られた入れ物。陶器(とうき)と磁器(じき)の2しゆるいがある。	122	佐賀県
炭鉱	たんこう	石炭をほるための山。	123	佐賀県
朝鮮出兵	ちょうせんしゅっぺい	豊臣秀吉(とよとみひでよし)が朝鮮(ちょうせん)へ兵(へい)を送り起こったたたかい。2回兵を送っている。	123	佐賀県
日本三大松原	にほんさんだいまつばら	まつが集まった林の中で、とくに美しいとされる3つの場所。静岡県(しずおかけん)、福井県(ふくいけん)、兵庫県(ひょうごけん)にある。	123	佐賀県
曳山	ひきやま	かざりをつけた木せいの車のこと。祭りの日に、人間の力で手おしすることで道路の上を走る。	123	佐賀県
日本新三大夜景	にほんしんさんだいやけい	新しく決められた、3か所の美しい夜けいのこと。北九州市、札幌市(札幌市)、長崎市(ながさきし)が選ばれた。	125	長崎県
い草	いぐさ	日本に生息する植物のこと。畳(たたみ)のざいりょうとなる。	126	熊本県
活火山	かつかざん	1万年以内に地下からマグマがふき出したことがあるもしくは、げんざいもガスがふき出ている山のこと。	126	熊本県
カルデラ地形	かるでらちけい	火山にできた、へこんだあなのこと。へこんだ部分に湖ができることがある。	126	熊本県
古事記	こじき	日本でもっとも古いれきしの本である。神の時代から推古天皇(すいこてんのう)までのじだいのれきしが書かれている。	130	宮崎県

日本書紀	にほんしよき	日本のれきしが書かれた日本でもっとも古い本である。720年にかんせいされたとされる。	130	宮崎県
火砕流	かさいりゅう	火山がふん火したときに、火山ばいと高温のガスが山のふもとに向かって流れるげんしょうのこと。	131	熊本県
シラス台地	しらすだいち	九州地方の南によく見られる、ふん火で発生した火山ばいがつもった土地のこと。	132	鹿児島県